

台風姿見えず

北隣の朝鮮半島の梅雨入りが年よりかなり早目となりそうとの予想が話題となっていたら日本列島でも6月に入るやいなや関東地方まで一斉に梅雨入りとなり、一転してオホーック海高気圧の冷たい気流のやませで梅雨寒、北日本低温となってきた。今年は気温の変動が大きく暖冬から記録的な春の高温、5月は初夏を飛び越えて真夏のような気候となり、富士山の残雪が一つ月も早く消えてしまった。激しい変動が後半に雪崩込んできている。

南の海上でも異変が続いている。台風の姿がいまだ見えず、卵すら熱帯の海上にない。今年になってまだ一つ発生していない台風ゼロとなっている。昨年はたくさん台風が発生して六月に三つ台風が列島に上陸して史上最多で賑やかだったが今年は様変わりしている。変調気味の今年とよく似た年が一九八三年である。前の年の八二年は当時史上最大規模のエルニーニョ現象となつて異常気象が多発した年であり、翌八三年が解消に向かった年である。九七年はさらに大規模のエルニーニョとなつ

て今年が解消の年である。

この八三年の時には、やっと台風1号ができたのが六月二五日と遅く、まさに今年と瓜ふたつである。大気の流れが変わってしまつて太平洋高気圧が強いのが原因ら強い。八三年は梅雨から夏にかけてオホーック海高気圧が強く、冷涼な北東気流『やませ』が吹きつけ、冷たい梅雨空が続いた。梅雨明けが遅れてついには七月下旬に梅雨末期の集中豪雨が山陰地方を襲つて、前年の長崎豪雨に続いての大きな被害となつてしまった。

富士山をはじめ、高山で記録的な早さで雪が消えつつあり、残雪が薄く次々と消えていつていっている。山の水の源が頼りなく、頼みは空の水道である梅雨の雨であり、台風の雨である。昨年も空梅雨気味だったが、3つの台風の上陸で救われた格好となった。水ものは一筋縄ではいかないが、被害の出るような集中豪雨でなく、まんべんなく降ってもらいたく、台風も小さめで雨だけで運んできて欲しい。なにか身勝手な願いばかりだが、それほど今年は季節が早く進み過ぎ